

AO・HANI

Social Welfare Organization Since 1991 Nara City Japan

2011 January 64号

謹賀新年



あおはにのしごと
セントラル班特集



生活支援部より

社会に開かれた施設運営のために
連載コラム:支援スタッフの声

理事長メッセージ:世の光

地域便り:ケアホーム便り
自然学校通信

あおはこの工場

セントラル班特集

あおはこのカレー工房



センイーハトツという事業所を構えるまでに発展し、青葉仁会といえはカレーとまで言われるようになっていきます。

この事業所では、就労移行支援事業と就労継続B型を組み合わせて、カレーをはじめとした食品加工、惣菜製造などを行っています。福祉施設の役割のひとつとして、力はあるのに、一般社会で働くことに馴染めない方に仕事を作り出すことがあります。セントラル班の仕事は、種類も作業量も多く、それを利用者の個性や特性にあわせてコーディネートしています。もし、その人に合わないと考えられる場合には、違う種類の仕事を試すこともできます。

そのためには一般市場に出しても恥ずかしくない商品を企画し、作れること、人に喜ばれ良く売れること、その結果として仕事の種類と量が豊かになっていくこと、これらが相互に作用し合うことが必要です。それが、実践されている事業所といえます。

レトルト釜の導入

一昨年、一つの転機が訪れました。レトルト釜の機器の導入です。それまでは冷凍カレーを作っていました



レトルト釜

が、レトルトは常温で管理できるため、より幅広い展開が可能になりました。近年では、企業からのOEM(他社ブランド

の製品を製造すること)に着手しています。その際には、「商品は一般企業と変わりません。でも御社にとってCSR(企業が利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもつこと)に役立ちます」ということを一言添えるようにしています。

就労移行支援の場々

あおはこの家のある袖ノ川町から、奈良市帝塚山南、デリカテッセンイーハトツ内に引っ越してから2年余り。この間、セントラル班は就労移行支援事業をメインにおこなうようになりました。関係機関との連携も深まっており、独自のプログラム(就職準備勉強会)で一般就労に結び付けています。今年度就職者数4名に加え、3名が就職前実習中。

来年4月には、いよいよ1階に物販、総菜販売スペースと、カフェがオープンする予定。セントラル班は、また今以上に幅広い支援が期待できる事業所になりそうです。



OEM商品

頼れる責任者 井西主任



井西主任

今年で入職10年目を迎える井西主任は、大の釣り好き。昨年の秋に第1子も生まれ、いまもとても生き生きと頑張っている職員です。

入職すぐの3年間で、生活支援スタッフとしてメキメキと頭角をあらわし、6年前にセントラル班に配属されました。初めての就労部で食品を扱うあたり、当初は前任者から引き継いだ事業を現状維持させるだけでも四苦八苦だったそうです。しかし持前の企画力と営業力により、セントラル班の売上は、利用者の数とともに大きく伸び、やがてオリジナルブランドのカレーも販売する本格的な食品加工班へと成長しました。

あおはこのカレーの評判の高さは、何を聞いてもそのスパイシーで風味豊かな味にあります。それを利用者の仕事としてプロデュースし、冷凍カレーやレトルトカレーを開発、さらにOEMを実現するなど、次々とヒット企画を生み出しました。「障害者施設でも、これだけの商品が作れるという誇りを、利用者がもてることを大事にしたい」「支援とは直接的な支援だけでなく、環境整備や働くという雰囲気づくりも重要です」と語る井西主任は、今後デリカテッセンイーハトツを利用者の訓練の場、就労の場としてさらに発展させたいと考えています。

この美味しいカレーですべての人が幸せになれることを期待しましょう。

ハーブクラブ

いつも初春よりご来店いただきありがとうございます。



新しいハーブクラブのパンフをたたいま作成中です。できあがりしましたらぜひご覧になってください。
今年もよろしくお願いたします。

製菓

今年は兎年、うさぎボーロがリニューアルしました。



写真は新春バージョンです。味の種類もふえ、サイズが小さくなって食べやすくなりました。

クラブ

年末商品のご購入ありがとうございます。

年末にチラシを作つてプロモーションしていた新春商品が好調でした。新商品の「もぐら庵カレンダー」や「岩田重義カレンダー」を沢山買つていただき、ありがとうございます。利用者の励みになっていきます。



モンベル抹茶茶碗の試作品

新しい取り組みとして、モンベルの新商品となる山の絵が入った抹茶茶碗のデザインを検討しながら試作品を作っています。今年の春頃から、

全国のモンベルのショップやカタログ紙上発売される予定です。
また、せつけんの新春バージョンを作りました。プチギフトにどうぞ。



月1回の外出で平城宮跡に行き、遷都祭を楽しんできました。



新春らしいパッケージのせつけん

製パン

進化する米粉パン

配合や発酵を変化させ、よりおいしいパンができました。また、新大宮にあるプロトンダイニングと



いうフランス料理の店で、青葉仁米粉パンが食べられます。本当に美味しい店ですよ。ぜひ一度行ってみてください。

プロトンダイニングで「奈良県産の米粉で作られた無添加パンです」と紹介されるあおはにの米粉パン。



プロトンダイニング

奈良市大宮町6-3-10 藤本ビル1F
TEL:0742-36-7665 FAX:0742-36-9066



木工

磨き丸太でペン立てづくり

磨き丸太をご存知ですか？ 床柱・丸桁などに、昔はよく使われていました。木工班ではこの材料を使って、ペン立てを作成しました。これは、沖繩で開催された銘木展示会での記念品に選ばれました。始めの200個の評判が良く、追加でもう200個の注文がきました。県産材を使った環境にいい商品をこれからも作っていききたいと思います。



ペン立てを磨く



磨き丸太のペン立て

また、去年改装して内張りを張った作業場は、この冬は快適に過ごせています。

本会では社会に開かれた施設運営を行うため、また、知的障がい者福祉の啓発のため、そして、なにより利用者自身の大きな励みになるため積極的に見学者を受け入れていきます。

社会に開かれた施設運営のために

生活支援部長 山出哲史

今年度(平成22年4月～12月)も県外・海外からの方々を含め、既に43団体(537名)がお見えになりました。それぞれの団体の特性や目的に合わせて対応内容を決めますが、見学当日には成功体験ばかりでなく、苦労話や利用者支援の現場においては日々試行錯誤を積み重ねていること等も話します。

また、こちらから明に開始せず、感想やご意見を頂戴しそれらのことを現場に活かすよう心がけています。

そして、見学者から『利用者が本当に生き生きと働かれていますね』『職員さんの笑顔が素晴らしい』『利用者スタッフの距離がとても近いと感じた』などの感想をいただいたときは本当に嬉しいです。心の中で、思わずガッツポーズをとっています。

今後、職員が一丸となって青葉仁会の理念『幸福の平等』を実践してまいります。

連載コラム 支援スタッフの声

お母さんと呼ばれたい……

生活支援部主任 乾 伸子 平成16年4月入職



ミュージック・ケア風景

心機一転、新たな気持ちで再スタートを切るべく大阪から奈良へやって来たのが、8年前の春。下の息子が小学校へ入学のタイミングで働くことを決意し、仕事探しを始めたのが、次の春がやってくる少し前のことです。

まだ手のかかる二人の息子を抱えて遠方の職場は考えられず近距離で探すも、農村地帯に住む身としては厳しいものでした。気持ち沈んでいく私に、当時小学校2年の長男が嬉しそうに差し出したのが、車で5分のところにある青葉仁会の会報やパンフレットなどでした。長男は地域交流行事



あおはにの家 2階 焼き肉パーティー



第九本番直前(京都コンサートホール)

『共に成長する』私の大好きな言葉です。利用者さんと笑い、泣き、共に過ごして、私こそ成長させていただいていると実感しています。これからも利用者さん達が、明るく笑顔でいてくださるよう御支援できればと思います。でも時々不安になります。お仕事がこんなに楽しくいいのでしょうか！

で青葉仁会を訪問し、利用者さん達と交流を深めてきたのです。いただいた資料を眺め、読み進めるうちに、わくわく、どきどき、資料からこぼれ出しそうな多くの魅力あふれる内容にいつしか魅せられていました。

私が子供の頃から憧れて夢果たせなかつた、「保育士さん」のように、楽しいイベント、音楽活動、創作活動、それらを通じて人とのつながりを持つて仕事……まるで宝物が詰まった宝箱のようでした。しかも御近所という好条件！

「皆さんの良きお母さんになれるように努力して参ります」

思い叶ってか、皆さんからは、現在、「乾ママ」と呼ばれておりますが、何となく別の意味のような響きが……よくわからないところでもあります……。お陰様で、日々、失敗もありますが、利用者さんの笑顔に癒され、パワーをもらって、楽しくお仕事をさせていただいていることは事実です。



ミュージック・ケア風景

せんか？」と尋ねました。受話器の向うの方は、「してます。してます。」と明るく2度繰り返して答えてくださいました。その返事を聞いた私の次の言葉は当然ながら、「面接をしていただきありがとうございます。ひょんなことから、素敵なプレゼントが舞い降りてきました。」

経験もない私ですが、新卒の若い方々と一緒に並び、新任の挨拶をさせていただいたあの時の言葉を、今も昨日のことのように覚えております。

世の光

桜が咲いて、新緑の移り変わりに見とれている間に夏が来て、そしてあつと言う間に秋が来て、またたく間に冬が来た。春から秋は、風に乗って雲のように過ぎて行く。ひととせの中でも冬の訪れは早く、そしてなんと長く感じられることだろう。いつの年も光かがやいていた季節は短く、足早に去って行く気がする。虫の音も絶えて、秋枯れも過ぎた枝に、糞虫がひとり孤独に風に揺れる頃、光は薄く短く、道行く人々も自らも、色を失くした空の下で、小さくなっていくような気がしてならない。

青空の下で空にむかって背伸びして、大きく息をして、両手をひろげて風を仰いでいたあの季節が恋しい。だから冬はそこそこにして「春よ来い早く来い」と唄わずにはおれない。

初春のお喜びを申し上げます

昨日までの師走におけるあの、世の末とも思える喧騒は、たった一夜で静まり返り、あまりにもおごそかに正月はやって来る。神はあまりの変化に対する激変緩和措置を「お屠蘇」と名づけて、事の始めにまず酔わせた。障害者福祉では、それは「特別対策」と呼ばれているものだ。しかしこの措置は平成24年3月迄の一時しのぎで、こちらは「繰り返せず」で慌てている。

話は年末に戻る。毎年のことだが、年の瀬も迫ると一年の計も霧散して、年始めの計

がいったい何であつたのかさえ、すぐには思い出せない。むしろ日々のやり残したことや、上手くいかなかったことに対する追憶と悔悟の気持ちに、後手の焦りを感じてしまう。これまでの記憶の中で、満足に納得して年末を迎えたことなど、思い出すことはできない。

正しい小学生の正月として、習字でよく元旦の計を書かされたものだ。しかし書き終わると同時に湧き上がるあの最高の開放感に、全ては、はかなくリセットされるか、一年の計という大きな誓いも誇大表示で、よくもって賞味期限はせいぜい3ヶ月がよいところだった。

で、あるにも関わらず毎年凝りもせず、何かの目標を掲げようとす。過ぎたことはさつと水に流して、新しいことに想いを馳せる。暗い過去より新しい光。過ぎた日の後悔の中に光を見出すことなどはできない。人は常に希望の中に光を見出し、その中に我が身を賭ける。そして世界は日の出を待っている。

話はいきなり世界に跳んでしまったが、小さく戻って、いろんな思いにふける大晦日も、除夜の鐘に合わせてカウントダウンを、ひとつふたつと数えるうちに、まるで何事もなかったように鐘の響きとともに消えていく。やがて余韻も途絶えて夜の帳の向こうに静けさが戻ると、山の向こう、海の向こうを急ぐ遠い朝の光が差しきて、「今年も頑張ろう」とみたいな、それなりに

新年の希望の光に満ちて変身していく。それはまるで、ふつうの餅が、ミカンを載せれば神聖なお飾りとなって光っているような、あの大変身にも似ている。まちがってもミカンの上に餅が載っているはならない。昨日までの悩み多き自分、あれは違う人だったのだと。

考えてみれば、毎年これと考える成長や変化も感じられないが、それでも正しく生きていく。脱皮と変身それが問題なのだから、原理は毛虫や蝶とそれほど変わらないような気もする。そして時間は瞬く間に過ぎて、悔悟と希望を積み重ねながらもそれはそれで人生になっていく。だから正月は有難い。節目がなければ何の意識もなく、脱皮や変身もままにすすると過ぎていく。他はない。そうなれば光も見えないままに、重荷だけを背負って生きていく人生になりかねない。正月があるからこそ払い禊ぎして脱皮、変身しながら、また新しく生きていく。正にある月なのだ。

新年を迎えてもなお光が見えないのは、障害者自立支援法だ。この法は、平成24年3月迄が有効期限だ。その先は障害者総合福祉法なるものが予定されているが、それは平成25年8月の施行予定だ。だからその間をどうするか、未だ光は見えてこない。どのような障害者福祉法であれ、社会保障論のないところに障害者施策は成り立たない。

混沌時代の原点回帰か、最近系買一雄

先生のあの有名な「この子らを世の光に」という言葉をよく見かける。この言葉に出会う時、何とも言いようのない光に包まれる様な気がする。

しかし、いつも自らに戒めるのは、同じように真似をして「世の光に」と言ってみても、急に何も光出すわけではない。どうすれば彼らが世の中で光り輝くかは、行為あつての話だ。それは経済、文化、地域参加、社会の関わりなど、様々の活動の結果として、本人の希望の光と生き甲斐の中で生み出されていく。「障害だから、重度だから、高齢だから、権利だから」、言いようは様々だが、それが光を導くための力になっているだろうか。人間の人生に対する定義など未だない。それぞれの理由を超えて福祉現場、親、兄弟、学校など原点に係わる者が先ず自分達から果敢に変化していく。その上で力を合わせなければ、机上の空論で話をされても根本は何も変わってはいかない。それが原点回帰だ。度重なる障害者施策が審議される今、いくらか制度に期待しても、目まぐるしく変わる制度に任せると、自分が、自殺行為であることをそろそろ学んでもよい年ではないだろうか。

「この子らを世の光に」それは夢かもしれない、しかし、だからこそいつの時代も皆が同じ方向をむいて、その光を目指して共に生きていける。「世の光」、それはもともと皆の胸に宿っている光のことをさしているのだから。

青葉仁会理事長 榎原典俊

☆新しい車が増えました。目印は、クリエイト班 KAZUMA画伯のイラストです。



私たちが生活を支えるスタッフの力量も問われています。

年齢も、昼間の活動(就職)先も、育った環境も様々な彼らが、ひとつ屋根の下で暮らしています。彼らの可能性を、成長を、邪魔せず寄り添い続けたいと思います。

ケアホーム便り

地域支援部部长(ケアホームサービス管理責任者)高原和美

● **事情があり、前の職場を退職したSさん。**
青葉仁会の就労移行で2年間頑張った！採用通知を受け取り、涙ぐんでいたと就労担当のスタッフより聞き、私ももらい泣き。
● **同じく、就労移行で頑張ったAさん。**
ホームの事で相談事があり、声をかけたら「実習が終わるまで他の事は考えられへん」との返事。真剣さが伝わり、こちらも身が引き締まる思いでした。
22名の内、一般就労の方が10名おられ、働き続ける事の難しさも痛感しています。「もう、仕事やめたい」と泣きながら訴える利用者さんの声に、私たちが生活を支えるスタッフの力量も問われています。

● **養護学校卒業後の2年間をホームで過ごしたKさん。**
今年の冬から弟さんと二人暮らしを始めました。引越越しの日、自分で隣人の方にもしっかりと挨拶をしていました。支えて下さった近所の方に感謝感謝です。
食事の事、体調の事等あれこれ心配しすぎてしまいましたが、新しい一歩を応援します。
● **手術を無事終えたMさん。**
ご家族がおられない中で不安も一杯だったでしょうが、最後まで頑張りました。もう大丈夫だからね。

地域便り

青葉仁会地域支援部では・・・
①相談支援 ②グループホーム・ケアホーム ③居宅介護・行動援護 ④移動支援 ⑤職場適応訓練(ジョブコーチ) ⑥つどいの広場(奈良市委託事業)を行っています。
その中から、ホームの様子あれこれをご紹介します。22名の利用者さんが、5つのホームに分かれて暮らしています。



ゆうゆうホーム

サンフラワーホーム
男性5名
奈良市古市町



さくらホーム

トマトホーム
女性4名
奈良市紀寺町

ピュアホーム
女性3名
奈良市古市町

さくらホーム
女性5名
奈良市帯塚山

自然学校通信

「きんりの森 第一トレール」完成！



間伐材運びだす 道ができていきます

自然学校の本拠地、袖ノ川ワークスにトレール(森林・原野・山地などの踏み分け道)が完成しました。人手が入った山は、美しくなり環境的にもいいものになります。間伐された材は、利用者が運び出し、薪づくりに使っています。
トレールの途中には、大きな湿地帯があるので、そこに絶滅種の山野草を移植する予定です。今年はこの道をたくさんの方が踏み固め、きこりの森の自然を満喫していただきたいと思います。
農作物も古代米や冬野菜の収穫が終わりまし
た。今回は大根の味噌漬物に挑戦します。またひとつ、新たな青葉仁名物が生まれるかも！



今年収穫の黒米

- 青葉仁会をご支援くださった方々(敬称略)
- 【会員】
- | | | | |
|------|------|-------|-------|
| 中川徹 | 中嶋華子 | 稲本信正 | 鈴木ふじ子 |
| 前西佳信 | 春田稔 | 鈴木恒彦 | 前川博 |
| 松原昇 | 松原保子 | 小川靖子 | 篠崎雄爾 |
| 堤昌彦 | 乾幸介 | 藤田栄一 | 久保岳彦 |
| 林俊栄 | 石田邦男 | 久保啓子 | 喜多照輝 |
| 藤田末子 | 井手睦子 | 鍵田忠兵衛 | 永井弘美 |
| 平木祐治 | 中山健 | 福嶋英子 | 八木謙二 |
| 鈴木欣子 | 米澤弘明 | 清水要一 | 穂迫勉 |
| 西川雅与 | 中野明美 | 江崎瑞裕 | 山岡照代 |
| 八木徹子 | 前川好治 | 三浦成男 | 近藤久 |
| 山本奈美 | 奥田麻子 | 西岡哲也 | 八木順子 |
| | | 森岡美好 | 高司示現 |
| | | 田中一郎 | 藤原和彦 |
- 【寄附】
- | | | | |
|-----------|-----|-------------|---------|
| 田原地区自治連合会 | 5千円 | 新谷美穂 | 2口 |
| | | 渡辺勝美 | 2口 |
| | | 大野加津子 | 5口 |
| | | 別府謙一 | 10口 |
| | | 岡田康夫 | 10口 |
| | | 園部隆由 | 1万円 |
| | | 奈良県サイクリング協会 | 千歳いづみ学園 |
| | | いづみ家族会 | 2万円 |
| | | 今人澄子 | 20万円 |
| | | 光専寺 | 20万円 |
- ※ご支援ありがとうございました。心から御礼申し上げます。